資料４

津島市総合戦略骨子（案）

第４次津島市総合計画

■計画期間
・基本構想：平成 22～32 年度
・基本計画：平成 22～32 年度
■将来像
～人を育み　想いをつなぐ～
ともにつくろう
住んでみたくなるまち　津島

人口の将来展望

○このままでは津島市の人口は加速度的に減少する。
○出生率が改善されないと、年少人口は 2030 年まで 2,400 人、2040 年までに 3,000 人減少し、1 学年複数学級を維持できない学校が増えていきます。
○年少人口の割合の維持・増加のためには出生率 1.8 以上が必要

【合計特殊出生率の目標】
1.10（H25）→1.80（H42）、2.07（H52）
【純社会移動率】
・マイナス移動率を半減、H52　年以降は0に

重点戦略目標

20～30　歳代の女性の転出を抑制し、出生数を増やす

・結婚による世帯形成や持家取得時の居住場所として、津島市を選んでもらうことにより女性の減少を抑制し、出生数の増加をめざす。

就職期の若者の転出を抑制する

・市外に働きに出ても、津島市内に住み続けること希望する若者を増やす。

名古屋市への通勤者の転入を増やす

・名古屋駅周辺の就業者の拡大を見込んで、名古屋市への通勤者の転入者を増やす

元気で魅力的な都市のイメージを形成する

・津島の都市イメージを改善し、若い人の定住を促すとともに、安定した交流人口の拡大を図り、雇用機会とそこで働く若い人を増やす。

施策方針

若い世代の結婚・出産・子育てを応援する

・子育て世帯への支援や教育環境の充実により、津島で子育てしたくなる環境づくりを進め、子育て世帯の定住の促進と出生率のアップを図る。

津島市に住み続けながら働けるようにする

・市内及び周辺都市において多様な職場を開拓するとともに、名古屋への通勤利便性が高い住宅を誘導し、就職期の若者の転出を抑制し、若者の定住を促進する。

人の交流・活動を活発にし、都市イメージを改善する

・活発な市民活動や津島の歴史文化の魅力の発信により、都市イメージを改善し、来訪者を増やすことで、さらに魅力的な都市イメージを形成する。

時代に合った地域をつくり、健康で安心な暮らしを守る

・地域の課題解決に向けて、市民と行政との協働の取り組みを強化し、市民の健康で安心な暮らしを守る。

施策・事業

①津島市で子育てしたくなる環境づくり	・子育て応援券の発行 ・妊娠・出産支援（不妊治療支援、妊婦健診及び産後健診等） ・子育て世帯への経済的支援（医療費無料化、多子世帯支援、私立高校授業料・給食費補助、就学援助） ・子育て支援センターの充実（相談、交流機能の充実） ・子どもの居場所づくり（放課後子ども教室、放課後児童健全育成事業） ・女性の社会参加を支援する預かりサービスの充実（ファミリーサポートセンター事業）
②子どもが健やかに成長できる環境づくり	・美味しくて安全な学校給食 ・総合的な子どもの体力の向上 ・学校と地域との連携強化（学校支援地域本部の拡大）
①多様で安定した職場の開拓	・産業用地の確保と企業誘致 ・地域企業の新分野・新事業開拓支援 ・地域企業の経営基盤の強化 ・起業支援
②利便性の高い住宅供給の促進	・駅周辺の住宅地の開発誘導 ・鉄道利用の利用促進
③企業と若者との接点の強化	・地域の企業情報の提供（企業ガイド制作） ・職場体験機会の充実（インターンシップ） ・地域の企業と学校との交流
①若い人の活躍機会の拡充と発信	・若者の企画・参画事業の実施（夢まちづくり事業等） ・空き家活用（若手経営者等による新規出店） ・活躍する若者の紹介情報の提供
②歴史・文化ゾーンの整備	・町並み景観形成（建物及び道路の修景・歩道整備） ・新たな観光拠点整備 ・空き店舗の活用（空き家バンク創設，改修支援） ・ユネスコ無形文化遺産登録
③シティプロモーションの展開	・地域ブランド化（山車グッズ,ブランド品開発等） ・観光情報の提供 ・各種プロモーション展開（パブリシティの活用、動画・写真のネットでの発信等）
①防災・減災対策の充実	・建物耐震化（公共施設・住宅、家具転倒防止） ・防災情報システムの構築 ・自主防災会やコミュニティ推進協議会の活動推進
②健康寿命の延伸	・市民病院の経営の安定化 ・在宅医療・介護連携事業の推進 ・地域包括ケアシステムの構築
③自治活動・市民活動の活性化	・自治組織の活動支援（活動助成、団体交流会等） ・市民活動の支援（つしま夢まちづくり提案事業、夢まちづくりセンターの運営） ・地域福祉活動の推進（地区社協づくり、助け合い）